病理診断科

国立がん研究センター中央病院で病理診断のスペシャリストに！

☞ 研修に関するお問い合わせ先
教育担当：吉田 正行
masayosh@ncc.go.jp

診療科としての人材育成のポイント

病理診断科で全臓器の病理診断を経験することによって、病理専門医を取得し、高度な診断スキルの習得を目指します。希望する特定臓器における診断・研究の専門家を育成します。① 全臓器の病理診断を経験し、病理診断医としての高度なスキルを習得する。② 希望する臓器の専門家を目指し、特定臓器の診断・研究を継続的に行う。③ 臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学会発表・論文作成を行う。

当科の研修は、がん専門病院の特徴を活かした、次のものとなります。① 3か月単位で病理診断科内の全臓器をローテーションし、病理診断を行います。豊富な症例数と多数の病理指導医のもと、稀な腫瘍を含めて多数例の診断を経験することができます。② 各臓器の病理専門家が揃っており、特定臓器の専門家を目指すことが可能です。③ 分子病理学的研究手法の指導を受け、研究者としてのスキルを習得できます。④ 院内の多数の病理ー臨床カンファレンスをはじめ、国内学会発表、国際学会発表、英語論文作成などの学術活動を行います。

＜指導スタッフ＞ 谷田部恭（科長）、関根茂樹（医長）、平岡伸介（医長）、前島亜希子、森泰昌、吉田正行、吉田朗彦、吉田裕、橋本大輝、中智昭、加島淳平、杉野弘和
（※学閥に関係なく、様々な大学・施設出身者が集まっています）

＜2021年の検体数＞（全般）

生検検体18,845件（うち術中迅速診断1,444件、ESDを含む）、手術検体4,545件、細胞診検体11,623件（うち術中迅速診断315件）、剖検15件

＜2022年のレジデント在籍数＞

専攻医基幹型2名（3年目1名、1年目1名）、レジデント短期コース1名（1年）、レジデント3年コース5名、がん専門修練医1名

＜レジデントの最近の卒後進路＞

当センター、都立駒込病院、国立国際医療研究センター、防衛医科大学、中京病院、東京慈恵会医科大学、筑波大学、東京医療センター、札幌医科大学、広島大学、兵庫県立加古川病院、北海道大学、福岡大学、新潟大学、新潟市民病院、東京大学、JR 東京総合病院、済生会川口総合病院、聖路加国際病院　他

専攻医コース（基幹型）（3年）

1年目	2年目	3年目
NCC での病理研修 3か月毎の科内ローテーション（消化管・婦人科・乳腺・泌尿器を含む各臓器）、迅速診断、剖検	**連携病院での病理研修** 希望に応じて研修先を選択し（2ー4か所、3ー6か月毎）、生検・手術検体、剖検などの診断を学ぶ。	**NCC での病理研修の続き** 3か月毎の科内ローテーション（1年目で研修していない臓器）、迅速診断、剖検

＋ And/or

取得可能
・病理専門医
・細胞診専門医

レジデント2年・3年コース

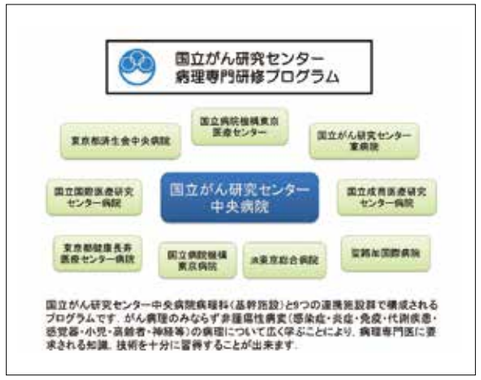
2，3年

1～3を希望に応じて研修する。
1、がん病理診断技術の向上
2、希望する特定臓器の専門病理医を目指す。
3、分子病理学的研究を行う。

連携大学院制度を活用した学位取得

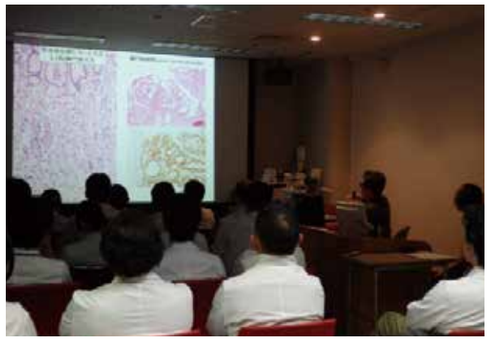
専攻医コース（新専門医制度）

平成29年度から開始された新専門医研修制度に基づき、がんセンター中央病院を基幹施設とする病理専門研修プログラムを設けました。この専攻医コースでは、病理診断を専門とし、病理専門医の使命を果たせる病理医の育成を第一義と考えています。その実現に必要な、専門的な知識・技術を有する指導医と多彩・豊富な経験症例、評価指導環境を整備しています。また病理診断の背景にある疾患病態の性格やその形成メカニズムの理解を通じて、病気の原因・本態・経路とその結果を探求していく病理学の専門家としての姿勢を学べるように考えています。本プログラムを履修することにより、一般病理からがん専門病理まで無理なく研修可能です。



研修内容（全般）

各臓器ローテート期間には、各臓器担当病理医の指導のもとで切り出しを行い、検鏡・ディスカッションを経て病理診断報告書を作成します。臨床医との術前術後カンファレンスにも参加します。在籍期間を通して、術中迅速診断、生検診断、剖検に参加します。術中迅速診断は年間約1400件と極めて多く、病理専門医試験受験資格取得のための症例経験数を容易にクリアすることができます。また剖検については、施設内外での剖検研修により必要経験数の達成が可能となっています。研究や症例報告など国内外の学会発表や英文論文の執筆も活発に行われており、研修中に指導医のきめ細やかなサポートのもとで学術活動を実践することも可能です。



レジデントプログラム ■ 病理診断科

§ 推奨するコース

●専攻医コース（基幹施設型）

対象者	・当科を基幹施設とした専攻医プログラムを選択し、新専門医制度で病理専門医の取得を目指す者
研修目的	・当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す ・オプション：細胞診専門医の取得のための研修
研修内容	・約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・院内では腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・連携施設での研修により、非腫瘍性疾患、小児腫瘍、神経変性疾患等の研修も行う。
研修期間	3年間（そのうち１年間の他院研修を含む）
研修の特色	・豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で診断・研究を研修することで、専門的な知識を得ることができる。 ・特色のある連携施設群での研修により、多様な経験を積むことが可能である。
その他（症例数や手術件数など）	・年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・これから病理診断医になろうという人のためのコースで、一般的な技量をまずは身に付けたい人に。

●レジデント３年コース・２年コース

対象者	・新専門医制度対象者は病理専門医取得済み、もしくは取得見込み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）で、当院での研修によりサブスペシャルティ専門医を目指す者 ・がん専門病院で病理診断や研究の技量を高めたい者
研修目的	・病理診断スキルの向上（細胞診専門医の取得を含む） ・特定臓器の専門病理医を目指す ・病理学的研究能力の向上
研修内容	・2年あるいは3年間の院内研修（連携施設での研修も可能）、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。 ・臨床病理学的研究に携わることも可能。
研修期間	２年間もしくは３年間（選択可）
研修の特色	・豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることが可能である。 ・希望により連携大学院に入学し、学位取得も可能である。 ・研修修了後は全国の中核病院、センター病院等、第一線で活躍する病理医を目指す。修了時には大学助教と同等レベルを想定。
その他（症例数や手術件数など）	・年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・病理専門医を取得（見込み）し、診断・研究で専門性を磨くコース。

基幹型専攻医コースを含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

§ 副次的なコース

●専攻医（基幹施設型）＋学位取得コース

対象者	・当科を基幹施設とした専攻医プログラムを選択し、新専門医制度で病理専門医の取得を目指す者 ・専攻医研修期間中に当院の連携大学院に入学し、学位取得を目指す者
研修目的	・当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す ・オプション：細胞診専門医の取得のための研修 ・連携大学院に入学し、専門臓器の臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学位を取得する
研修内容	・約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・院内では腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・連携施設での研修により、非腫瘍性疾患、小児腫瘍、神経変性疾患等の研修も行う。 ・連携大学院に入学し、臨床病理学的・分子病理学的研究の指導を受け、研究者としての手法を学ぶ。
研修期間	5年間（専攻医3年＋レジデント2年、専攻医3年目より連携大学院に入学）　※レジデント採用には再度試験を行う
研修の特色	・豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることができる。研修期間中に専門医と学位の取得が可能。 ・特色のある連携施設群での研修により、多様な経験を積むことが可能である。 ・研修修了後は全国の中核病院、センター病院、研究機関等の第一線で活躍する病理医、研究者を目指す。
その他（症例数や手術件数など）	・年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・病理専門医と学位との取得を目指すコース。大学における病理大学院とほぼ同等レベルを想定。

●がん専門修練医コース

対象者	・新専門医制度対象者は病理専門医取得済み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）、かつ、サブスペシャルティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者 ・がん専門病院で病理診断や研究の専門性・技量を高めたい者
研修目的	・特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高める。 ・臨床病理学的研究に携わり、研究能力の向上、成果の発信を目指す
研修内容	・希望する専門臓器を中心として病理診断に携わり、専門性を高める。 ・レジデントコースや専攻医コースのレジデントへの教育に関わる。 ・専門領域の臨床病理学的研究の実施。
研修期間	２年間
研修の特色	・豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることが可能。 ・連携大学院在籍中のものは、学位取得のための研究を引き続き行う。 ・研修修了後は全国の中核病院、センター病院、研究機関等において、病理医・研究者のリーダーとして活躍するために必要な能力の修得、向上が可能である。修了時、大学助教・講師レベルを想定。
その他（症例数や手術件数など）	・年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・病理診断医および研究者としての経験を持ち、それをさらに発展させるコース。

§ その他のコース

●専攻医（連携施設型）

対象者	・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている病理専門研修プログラムで研修中の専攻医
研修目的	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
研修内容	・概ね3か月～1年の院内研修を通じて、希望臓器の病理診断経験を積む。 ・腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで病理診断に携わる。
研修の特色	豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で診断を研修することで、稀な腫瘍の診断を経験でき、専門的な知識を得ることができる。

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：６か月～1年６か月。病理診断科研修
特色：大学病理部からの派遣として国がんの病理を見てみたい、外科医だが一定期間病理研修がしたいなど、有給短期研修を望む人のコースです。

基幹型専攻医コースを含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等　病院全体で定められた基準は16-17ページを参照